

第2回(平成21年度第1回)方法論パネル議事概要

日時: 平成21年6月17日(水)14:00~17:00
場所: 社団法人海外環境協力センター会議室
出席者: 水野座長、橋本委員、山田委員、吉高委員
欠席者: なし

●環境省より、第1回方法論パネル以降の経緯について報告

【議題 1-1: 木質バイオマスによる化石燃料代替】

- 木質が未利用であることの証明方法の設定
- 輸送に伴う排出量把握の簡略化（同一県内における運搬については算定対象外にする等）
- ペレットの場合は経済性評価は不要。アーリーアクションも認める方向性
- ペレットストーブの場合のベースラインは統計データ等保守的なものを用いればよい
- 可能な限り合理的なデフォルト値を設ける

本議題に関する委員からの主な意見は以下のとおり。

- ストーブにおいても石炭・ペレット等の運搬があるのではないか。
- ペレットの場合は経済性評価は不要とのことだが、ペレット価格と化石燃料価格との比較が方法論に反映されているのか。今後の方法論の見直しはどのように行われるのか。
- デフォルト値として石油・ガスに該当しない「その他」を100%としているが何を想定しているのか。

【議題 1-2: 廃食用油由来のバイオディーゼル燃料の車両における利用】

- パブリックコメントを踏まえてエタノールを用いたエステル交換方式を可能に。
- 天然ガス由来のメタノールの取扱方の設定
- オフロード車についてはもう少し時間をかけて調べたい

本議題に関する委員からの主な意見は以下のとおり。

- 船舶についてはどうするか。
- 経済性評価不要といった場合に他の方法論との公平性を考える必要があるのではないか。

【議題 2-1: 下水汚泥由来の固形燃料の利用による化石燃料代替】

事務局の提案に対して、本議題に関する委員からの主な意見は以下のとおり。

- 脱水汚泥を焼却して埋め立てるというケースを想定しているか。
- 投資回収年数があまり長いとなると汎用性はあるのか。

- なるべく間口は広げた方がいいが、メタン排出まではカウントしない方がいいのではないかな。
- 対象がインベントリに含まれているかを確認した方がいいのではないかな。
- 輸送部分がそれなりに大きいということで
- 未利用証明書については一般論としてロジックを統一した方がいいのではないかな。

【議題 2-2: 小水力電力】

事務局の提案に対して、本議題に関する委員からの主な意見は以下のとおり。

- 環境価値の帰属について調査すべきではないかな。
- 環境影響評価について調べておいていただきたい。
- アーリーアクションについては慎重に考えるべきではないかな。

【議題 2-3: 低温排熱の回収・利用】

事務局の提案に対して、本議題に関する委員からの主な意見は以下のとおり。

- 排熱回収箇所と排熱利用箇所が特定できモニタリングできることが重要である。
 - 量も箇所もわからなくてモニタリングできないとなるとクレジットは発行できないが間口は広げておいた方がいい。
 - あまり経済性評価を安易にしすぎるのはどうかと思う。
 - うまく設計すれば汎用性が高まるので工夫すべきである。
-
- 次回の開催は、パブリックコメントを経て、秋ごろに設定する予定。